

旧鍋屋交番きたまち案内所

瀬渡 章子

生活環境学部 住環境学科 教授

■沿革

旧鍋屋交番きたまち案内所（以下、案内所）は、奈良警察署旧鍋屋連絡所を復元的に改修した建物で、1908（明治 41）年に設置された「鍋屋巡査派出所」を起源としています。当時は現在地より南へ約 50 メートルの鍋屋町にありましたが、1928（昭和 3）年に現在地に移転し、その際にこの建物が新築されたようです。派出所建築としては珍しい洋風のこの建物は、当時向かいの敷地に建つ奈良女子高等師範学校（現奈良女子大学）の洋風木造校舎の意匠の影響を受けたと考えられます（写真 1）。



写真 1 奈良女子高等師範学校 1937（昭和 12）年頃

1960（昭和 35）年には「鍋屋派出所」に、また 1973（昭和 48）年からは「鍋屋連絡所」へと建物名称が変わりましたが、地元では「鍋屋の交番」として長く親しまれてきました。しかし、2004（平成 16）年度末にその役割を終え、老朽化が進んでいることから解体を待つばかりの状態となっていました（写真 2）。



写真 2 旧鍋屋連絡所（改修前）



旧鍋屋交番きたまち案内所（改修後）

■周辺の環境

案内所のある“奈良きたまち”は、東大寺転害門、正倉院、聖武天皇陵、般若寺、奈良女子大学記念館、旧奈良監獄など、古代・中世から近代・現代に至るまでの多様な文化遺産が重層的に存在する地域で、近年この地域の魅力に注目が集まっています。案内所は、近鉄奈良駅からは奈良きたまちへの入口部分にあり、周囲は、奈良女子大学記念館（明治建築、正門・守衛室（写真3、4）、と併せて重要文化財に指定）や伝統的町家、初宮神社などの歴史的建造物が立ち並ぶ独特の歴史的景観が残されています（写真5）。



写真3 奈良女子大学正門（記念館、守衛室とともに平成6年に国の重要文化財に指定）。



写真4 奈良女子大学守衛室



写真5 旧鍋屋連絡所前の通りに面して伝統的町家が立ち並ぶ（改修前）

■建物の特徴と改修

旧鍋屋連絡所の建物は、南北4間、東西2間、木造平屋建、寄棟造で、建築面積24.8㎡の小規模な洋風建築です。平面は、南西角を隅切りして入口を設け、南半分は執務室（土間）、北半分は廊下・宿直室（和室）となっています（図1）。南東部に、切妻造、棧瓦葺の和風増築部があり、便所・物置に使用されていました。

外壁は木の柱を表に見せない大壁造りとし、セメントモルタルで柱形と上部に梁形、基礎

上に巾木を造り出しています（図2、3）。窓は欄間付上げ下げ窓で（写真6）、窓台、窓枠ともにアールの断面をつくり、鉄板を用いた簡素な庇が取り付けられています。内部の執務室は、壁は白漆喰仕上げで腰は板張りとし、天井廻縁、腰壁の見切り、巾木にも線形をつけるなどの繊細な意匠がみられました

改修に向けて綿密な調査が行われ（写真7、8）、建物の劣化状況、建築年代、過去の修理履歴などが明らかになり、「近代洋風建築としての歴史的価値や建物の雰囲気損なうことなく今後の活用に供する」ことを基本に改修が進められました。外見上の特徴的な改修として、正面入口の引違い戸が、調査から判明した建築当初の両開き扉に変更されたこと（写真9）、また活用利便の観点から接客・展示スペースとして執務室と和室を一体的に利用できるように、和室の押入れを撤去して執務室から直接入れるようになったことがあげられます（図1）。



写真7 建物調査1



写真8 建物調査2



写真9 両開扉に改修された正面入口

■建物保存に向けた取り組み

奈良女子大学の当時の副学長から生活環境学部住環境学科に、旧鍋屋連絡所が解体されるかもしれないので調査してみてはどうか、という声がかかったのは2006（平成18）年の

ことです。学科内に研究会を立ち上げ、建物の保存・活用に向けて関係機関への相談や調査が進められました。奈良県警には建物の解体の保留をお願いし、大学には建物の活用案を示して土地・建物の譲り受けをお願いしましたが、コスト負担に見合う大学としての有効活用策が見えないとして、大学の判断は保留されました。

その後、一定時間が経過した 2008 年秋、大学教員、地元自治会長、きたまちのまちづくりに関心ある人々が集まり、新たな動きが起きました。その活動の中で確認されたことは、「近代遺産として歴史的意味の大きい旧鍋屋連絡所を改修し、地元を中心に奈良女子大学、市民が共同して地域の安全・安心の拠点や街づくりの拠点など地域の発展に寄与する施設として有効活用していける体制づくりを行うこと」と「関係者（奈良女子大学、地元住民、市民）が土地・建物を所有することが困難であるため、関係者が責任を持って運営・管理する体制をつくることを条件に関係者から奈良市に対し土地・建物の譲り受けをお願いすること」でした。

すなわち大学だけで保存・活用を検討するのではなく、地域の施設として位置付け、多くの関係者の知恵を結集することにより、広く地域に開かれた施設をめざすことになったのです。この過程で、「鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会」（略称：旧鍋屋交番と奈良きたまちの会）が結成され、保存・活用に向けた動きが一気に進み、建物改修が実現することになりました。

■運営団体「なべかつ」

以上の経緯で、2012（平成 24）年 7 月「旧鍋屋交番きたまち案内所」が誕生しました（写真 10）。オープン当初から「旧鍋屋交番と奈良きたまちの会」（愛称：なべかつ）が案内所を運営しています。本会は、発足以来、旧鍋屋連絡所の保存・活用に係る諸問題の解決のために関係機関と何度も協議を重ねるとともに、奈良きたまちの魅力発信のために様々な市民向けの活動を行ってきました。現在も、案内所を拠点に以下の活動が続けられています：きたまち大学校（きたまちの歴史や文化をテーマとする公開講座）、奈良八重桜巡り（写真 11、写真 12、きたまちに多く植わる遅咲きで可憐な奈良八重桜をボランティアの案内で鑑賞する会）、きたまちスケッチ大会（歴史的建造物や趣のある街並みなど思い思いの場所を描いて交流する会）、正倉院探訪（写真 13、正倉院展の期間中に開催される正倉院を間近に眺めながら正倉院について学ぶ企画）、など。



写真 10 きたまち案内所開所式
(2012 年 7 月)



写真 11 ならの やまざくら 奈良 八重 桜 (奈良女子大学構内)



写真 12 奈良八重桜巡り写真



写真 13 正倉院探訪

■案内所の運営

案内所は、毎日午前 10 時から午後 4 時まで開館されており（水曜日と年末年始の休館日を除く）、なべかつ会員をはじめ、地元や市民ボランティアが交代で来館者の対応に当たります。案内所のボランティアは「駐在さん」と呼ばれています（写真 14）。案内所ではきたまちの各種マップ、店舗や観光などに関する様々な情報を入手できます。観光客だけでなく地域をたずねてきた人の道案内にも一役買っています。案内所の和室は、狭いながら書道展、スケッチ展（写真 15）、雛人形展（写真 16）などの展示が行われ、気軽に立ち寄れる場所となっています。

この建物は、派出所としての役割を終えて長く無人の状態が続いてきましたが、案内所がオープンしてから通りに活気が生まれ、安心感が高まったという地域の声も寄せられています。



写真 14 駐在さん



写真 16 スケッチ展



写真 16 雛人形展

■おわりに

「鍋屋の交番」として地域で長く親しまれてきた小さな交番建築は、解体をまぬがれ、保存に向けた多くの人々の熱い思いと努力によって、日常的に活用される地域の施設として蘇りました。奈良女子大学は2019年に創立110周年を迎えますが、向い合うこの建物は約90年間、この地にありました。これからも大学や地域の変化を見守ってくれることでしょう。

この記事を読んでいただいた皆さん、是非一度「旧鍋屋交番きたまち案内所」を訪れてみてください。奈良きたまちのホットな情報を携えた「駐在さん」が、温かく迎えてくださることと思います。

参考文献

『なべかつの三年間ー建物保存とまちづくりへの記録ー』鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会編集・発行、2014年5月。(建物の保存・活用にいたる経緯や建物改修の詳細が記録されている。本冊子は旧鍋屋交番きたまち案内所にて頒布中。)

参考URL

奈良きたまち→<http://www.kitamachi.info/index.html>

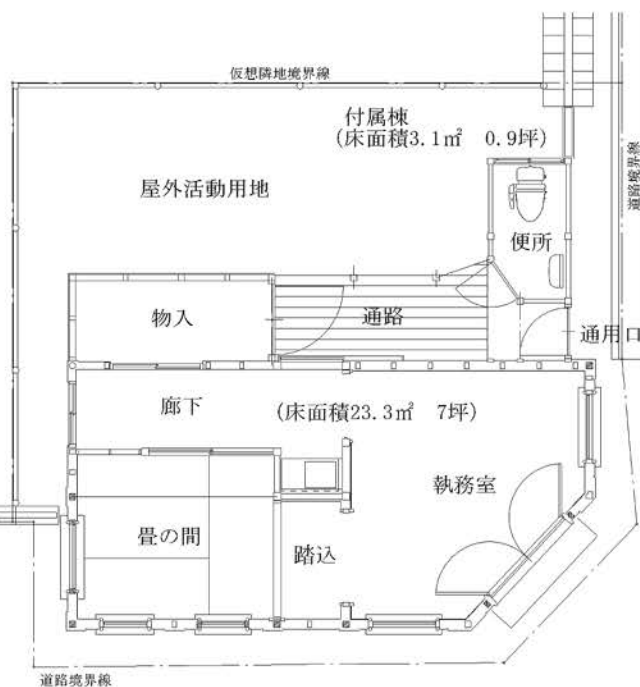
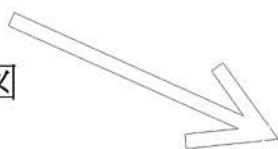
旧鍋屋交番と奈良きたまちの会→<http://www.kitamachi.info/nabekatsu/index.html>

資料

旧鍋屋交番きたまち案内所概要 図4、図5、図6



修理前平面図



修理後平面図



修理後西立面図



修理後南立面図

旧鍋屋交番

奈良きたまち案内所

図1 旧鍋屋交番図面（改修前、改修後）



ピナクル →

切妻の飾り破風

寄棟の屋根



木製の上げ下げ窓



基礎部分の御影石

軒を支える柱型

図2 建物の特徴 (1)



窓廻りの額縁
意匠

基礎は花崗
岩の切石

腰壁は目地を入れる

角柱の柱型

セメントモルタル
塗り大壁

図3 建物の特徴 (2)

「旧鍋屋交番 きたまち案内所」について

地域の方々から「鍋屋の交番」と呼ばれ、愛されながら使われていたこの建物は、平成 16 年度(2004 年度)に奈良警察署鍋屋連絡所としての機能を終え、閉鎖されていました。この建物のある“奈良きたまち”には、東大寺転害門、正倉院、聖武天皇陵、般若寺、奈良女子大学記念館など、古代・中世から近代・現代に至るまで、この地域がくぐり抜けてきた歴史の雫とも言うべき、多種多様な文化遺産が重層的に存在しており、大きな魅力となっています。

また、地域の人たちがボランティアの館長として仕事場の一角や個人の収集品などを公開し、地域の伝統の技や文化にふれる場となっている“奈良まちかど博物館”も数多く存在しています。さらに、奈良街道まちづくり研究会の方々を始めとする地元の方々が、東大寺の修二会（お水取り）に先立って、「二月堂竹送りお迎え式」を行うなど、現代においても、地域の生活に密着したまちおこし・まちづくりの活動、が盛んな地域です。

「鍋屋連絡所」は、近鉄奈良駅から奈良きたまちへの入口部分に位置しており、奈良女子大学にも隣接していることから、奈良きたまちの観光拠点や地域住民の活動拠点、大学のまちづくり等に関する研究・教育拠点などとして活用するには絶好の立地です。また、小さいながらも特徴ある建築物として地元住民のみならず奈良を旅する人たちにも注目され続けてきました。そこで、地元の自治会長、奈良女子大学の教員、この建物の保存・活用に興味を持つ市民らが集まり、「鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会」(2009 年 4 月に会則制定)を結成して、閉鎖されていたこの建物を“奈良きたまち”の観光拠点や地域の活動拠点、大学の研究・教育施設などに活用しようと活動を始めました。



そして、奈良市に、市と当会との協働事業として、修理・保存に向けた予算の確保や私たちの取り組みへの協力をお願いし、市の関係者の方々を始めとした多くの方々のご尽力により、建物の修理・保存が実現しました。こうした経過を経て、奈良市において「奈良市きたまち鍋屋観光案内所」として設置された建物を、当会として「旧鍋屋交番 きたまち案内所」と呼び、きたまちの案内所等としてボランティアで運営する運びとなりました。このきたまち案内所が、奈良きたまちを訪れる方々や地域の方々から愛される施設となるよう願っております。

平成 24 年（2012 年） 7 月

鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会
(通称：なべかつ)

開所時間：10 時～ 16 時

休館日：毎週水曜日（休日を除く）及び年末年始(12 月 27 日から 1 月 5 日)

電話・FAX：0742-23-1928

なべかつのホームページ：<http://www.kitamachi.info/nabekatsu/>

旧鍋屋交番 きたまち案内所のホームページ：<http://www.nabeya.kitamachi.info/>

旧奈良警察署鍋屋連絡所の建築

建物概要

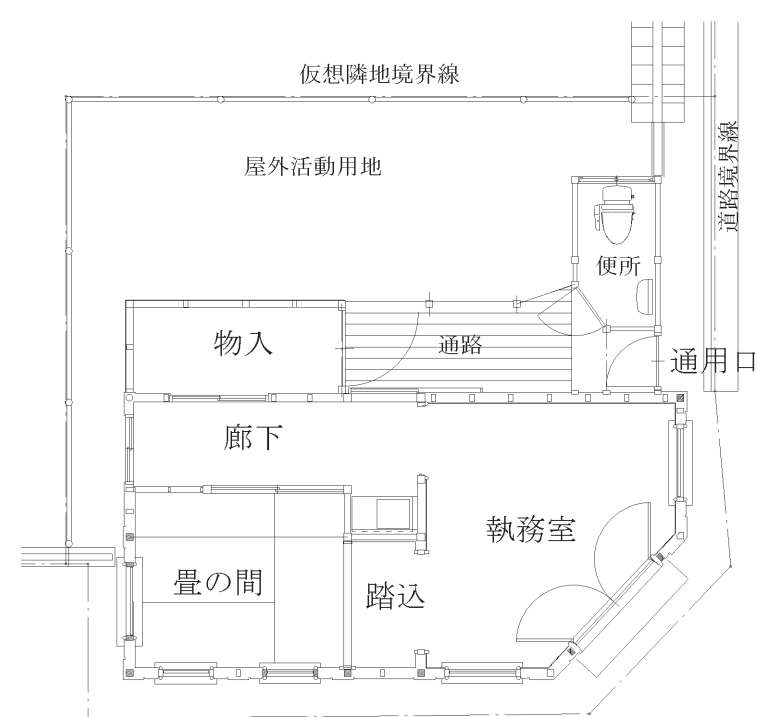
西面、南面を道路に接し、南北 4 間、東西 2 間の木造洋風建築で、南西隅を隅切りして入口を設けます。平面は南半分を執務室、北半分を廊下・宿直室（畳の間）とします。屋根は寄棟とし、隅切り部には切妻の飾り破風と棟飾りを載せます（床面積 24.8 m² 7.5 坪）。南面東側に切妻造、棧瓦葺の和風建築の付属棟があり、便所・物置に使われていました（床面積 3.1 m² 0.9 坪）。外壁は木の柱を現わさない大壁造りとし、セメントモルタルで柱形と上部に梁形、基礎上に巾木を造り出します。入口は木製の両開扉とし、窓は木製の欄間付き上下窓で、鉄板を細工した簡素な庇を付けます。執務室の壁、天井は当初漆喰塗りで、廊下・宿直室の天井は板張りペンキ塗り、壁は漆喰塗りでした。



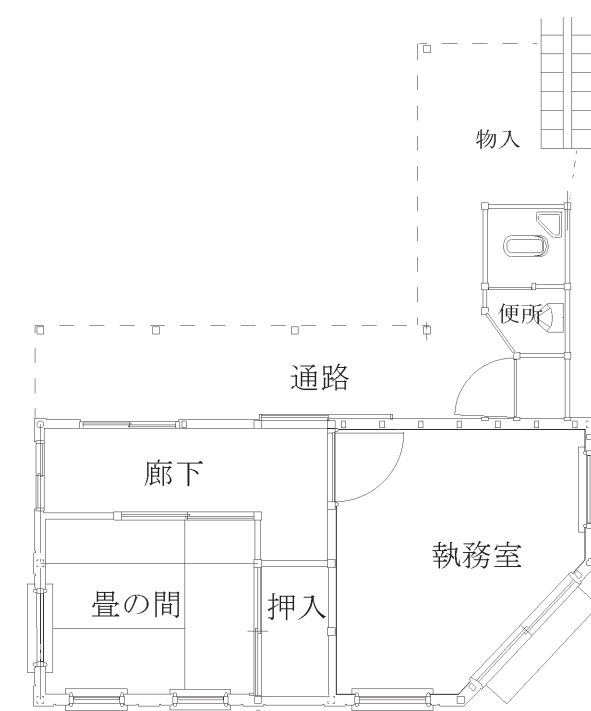
西立面図（修理後）1:100



南立面図（修理後）1:100



平面図（修理後）1:100



平面図（修理前）1:100

沿革

旧奈良警察署鍋屋連絡所は、明治 41 年（1908）に設置された「鍋屋巡査派出所」を起源とし、当初は現在地から 50mほど南の鍋屋町にありましたが、昭和 3 年（1928）に半田横町の現在地に移転したとされます。昭和 35 年（1960）「巡査派出所」の「派出所」への改称があり、その後「鍋屋派出所」は昭和 40 年代に廃止されますが、昭和 48 年（1973）からは「鍋屋連絡所」として使用されました。平成 16 年（2004）にその機能を終え、閉鎖されました。現在地に移転した後も地元の人々からは「鍋屋の交番」と呼ばれ、親しまれていました。



修理工事概要

使われなくなったこの建物を“奈良きたまち”の観光拠点や地域住民の活動拠点、大学のまちづくり等に関する研究・教育拠点などとして活用されることになり、奈良女子大学の協力を得て奈良市と当会が協働して修理を行うことになりました。市で工事をして頂くのに先立ち、当会は建物実測調査を行い、それに基づき修理設計資料、要望を市に提出、協議し工事は進められました。



修理前の状況	柱や土台など木部の腐朽箇所が多く、建物に揺れと倒れを生じ、また屋根、壁、建具等全般に老朽化がすすんでいました。
基本方針	近代洋風建築としての歴史的価値と、長年にわたり交番として親しまれてきた建物の雰囲気損なうことなく、これからの新たな活用に供するための修理を行うことにしました。設計時点では当初姿の全容は明らかでなかったため、修理年代は昭和 30 年代の修理後の姿としました。
修理内容	建物の安全性と耐久性を高めるため、コンクリート基礎の補強、腐朽材の取り換え、揺れ・倒れの是正、屋根葺き替え等行いました。屋根葺材は設計時点では当初仕様が明らかではなかったため、今回修理は波型鉄板の現状修理としました。入口建具は両開き扉に戻し、その他上げ下げ窓や壁を修理しました。執務室と畳の間を隔てていた押入を執務室からの踏込みに改造し、2 部屋を一体化し、案内所として使用する上での利便性を計りました。また当初材で再用可能なものは再用了。当初漆喰塗り箇所は予算上の都合から、ボード張り下地に水性塗料塗りで漆喰に替えました。外壁、軒先樋、飾り破風の色彩は、昭和 30 年代も当初と変わりがないと考えられたため、当初の色彩を探り、屋根は昭和 30 年代の色彩で修理しました。



修理工事で明らかになったこと	【建築時期】	移築した痕跡は無く、鍋屋町から現在地に移転したとされる昭和 3 年頃、新たに建築されたものと考えられます。
	【修理、改造の変遷】	建築後の主な修理、改造はおおむね 3 回認められます。昭和 30 年代に壁漆喰の修理、昭和 50 年代には壁修理と入口建具を両開き扉から引違い戸に改造が行われ、昭和 60 年頃には執務室の壁、天井の漆喰塗りをボード張りに改造されました。その他、時期は特定出来ませんが、屋根葺材を当初材から波型鉄板に変更し、さらに一度葺き替えをしていました。また宿直室を 6 畳から 4 畳半に改造し、廊下を設けました。「人工スレート菱葺」と呼ばれるもので、約 25 センチ角の人工スレート平板を 45 度回転し、菱形に並べていく工法。
	【当初の屋根葺材】	

建物評価	* 昭和初期の「巡査派出所」の形態を留め、当初の姿をよく残していること * 奈良女子高等師範学校の建物の意匠を意識し、当時の建築技術であったセメントモルタルで洋風建築を表現していること * 奈良女子大学記念館・正門等、近隣の伝統的町家、奈良奉行所馬場跡等からなる歴史的景観の核となっていること 近代における「巡査派出所」の希少な遺構として価値は高く、また地元住民はじめ関係各位の協力のもと、新たな活用が期される幸運な建物です。
------	---

図6 案内所の概要3